

行政視察報告書

■目 的

熱海市のインバウンド需要受入の推進、ロケサポートの取組、浜松市の音楽を中心としたまちづくり、フィルムコミッション推進事業についての調査

■訪問都市

静岡県熱海市、静岡県浜松市

■期 間

令和7年1月16日（木）から1月17日（金）まで 2日間

高松市議会

<自由民主党清新会>

派遣議員名簿

杉本	勝利	齊藤	修
妻鹿	匡登	崎山	美幸

●用務の経過と結果

1 熱海市

《インバウンド需要受入の推進》

(1) インバウンドの状況

訪日外国人旅行者の動向は、国の積極的な施策により、長らく 600 万人台から 800 万人台で推移していましたが、2013（平成 25）年に、1,000 万人台を、2015（平成 27）年に 2,000 万人台を達成している。

2020（令和 2）年コロナ禍により皆減状態になっていますが、インバウンド目的としての我が国の人気は高く、トレンドとしては堅調に増加している。

(2) 熱海観光の目指すべき姿

「変化しつづける 温泉観光地」を基本理念とし、観光基本計画の計画期間内での視点として、目指すべき姿を設定している。

「首都圏」顧客支持率 ナンバー1 温泉観光地熱海として、観光を取り巻く変化の激しい環境の中、短期・中期的には、①首都圏への人口（特に若年層）の集中、②国内旅行に対する志向（1泊中心）は変わっていない。

首都圏への人口集中のほか、首都圏は生活の場としてだけでなく、国内観光客のほか、外国人観光客の多くが訪れている一大観光地となっている。

また、熱海市の強みは、首都圏からのアクセス「立地」、日本人に根強い人気の「温泉」、外国人にも訴求する「景観」・「花や海などの地域コンテンツ」、そして多彩な魅力を持つ「宿泊施設」の数々の集積にある。

富士山や伊豆半島ジオパークの世界認定、オリンピック等の国際レベルのイベント、静岡DCや大河ドラマの放映などの機会に加え、市内には魅力ある宿泊施設増加の動きがある。

熱海市を名実ともに日本でナンバー1の温泉観光地として不動のものにするため、「首都圏」顧客に対して、必ず選択される街を目指すことを、その第一歩としている。

(3) 実現のための2つの柱

① 将来のリピーター層に想起される 新・熱海ブランドの構築

② 市内回遊性の向上と伊豆箱根エリアにおける観光ハブ拠点化による新たな来遊客の創出

首都圏の若年層を中心とした将来のリピーター層に選択されるための新・熱海ブランドの構築し、箱根や富士・伊豆エリアとの連携により、立地を活かし熱海がこのエリアの観光ハブ拠点となることで、周辺観光地の資源・コンテンツも熱海観光の魅力としている。

また、市内各地の地域資源の再発見と魅力アップ、回遊性を高める各種ソフト・ハード施策に取り組み「滞在空間」としての熱海の魅力を高めている。

《ロケサポート》

(1) ロケサポートの現状

熱海市は、「旅」・「グルメ」などの情報番組のロケを熱海市地域おこし協力隊さんとともに無料でサポートしている。

CM、映画、ドラマ、MV、PVなど、たとえ数分でも市民や観光のお客様の通行を止めたり、迂回をお願いしたり、休憩している方を移動させたり、音を嫌がり工事を一時的に中断させたりする作品に関しては、市民や観光のお客様からの苦情やトラブルが多いため、公共施設（ビーチや熱海市が管理する公園、駅前、市道など）での撮影許可を見合わせている。

(2) 具体的な実施内容

下記5点の理念を基に、公共施設等の撮影仕様許可申請事務や警察署への道路使用許可申請を代行し、必要に応じてロケハン（事前下見）やロケに同行、市民や事業者、観光客に撮影行為が支障を及ぼすことないように、あらゆる面で黒子役として撮影のサポートを実施している。

- ・営業をせず、番組制作側からの問い合わせにより、誠心誠意対応する
- ・ADさんを徹底的に親身になって助ける
- ・番組だけでなく「市民・観光客ファースト」を根幹とする。
- ・PR効果の度合いによって対応に分別する。
- ・自己スケジュール管理により365日対応することを基本とする。

(3) 市民や民間事業者の意識や機運

撮影そのものに意識の差異はあるが、テレビ番組による露出が増えることで、旅行・訪問意識が高まり、観光客が増加し、熱海市が盛り上がっていると報道がなされ、民間事業者の新規開業が増加し、旅行者の満足度の向上などに寄与している。

(4) 今後の展望

最大の目標として、熱海市のブランドイメージ刷新もほぼ達成できたため、委嘱した地域おこし協力隊と連携し、全ての番組ではなく、リスクなくサポートを行える、おとなしい番組のロケに受け入れを整理し、YouTubeやSNSを活用した情報発信を重視する。



2 浜松市

《音楽を中心としたまちづくり》

(1) 概要

浜松市は、これまで、オートバイなどの輸送機器産業、浴衣などの繊維産業、ピアノをはじめとする楽器産業の三大産業を中心として、「製造業のまち」「モノづくりのまち」として発展している。

さらに、ものづくり中心の「楽器のまち」から文化面での発展を目指し、昭和 56 年から「音楽のまちづくり」を掲げ、国際的なコンクールや芸術性豊かな公演など質の高い事業をはじめ、音楽を通した国内外の交流事業、アクトシティ浜松や楽器博物館などの文化施設の開設、アクトシティ音楽院の創設、そして、市民自らが参加し、創り出す様々な文化事業など国際レベルから市民レベルに至るまで、数多くの施策を続けている。

また、浜松市は、ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野に加盟しており、音楽を中心としたまちづくりに取り組むとともに、今後も、令和 2 年 3 月に策定した「浜松市文化振興ビジョン」に基づき、音楽文化の創造・発信・交流に取り組むとともに、市民が多様な音楽に触れる機会の創出や活動の場の整備を進め、世界レベルの音楽文化や人材が生まれ、人々が音楽の豊かさや楽しさを求めて集まる“音楽の都”を目指している。

(2) 取組内容と成果

① 取組内容

- ・国際的なコンクールや芸術性の高い公演の開催
- ・音楽を通した国内外の交流事業
- ・アクトシティ浜松や楽器博物館などの文化施設の開設
- ・アクトシティ音楽院の創設
- ・若い世代のアーティストの育成やバックアップ
- ・音楽の可能性を探り、新しい音楽文化の創造

② 成果

2014 年に世界で 7 都市目、アジアで初のユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野での加盟が認定、浜松国際ピアノコンクールや世界青少年音楽祭等の国際的催し物の開催である。

(3) 目指す姿

世界レベルの音楽文化や人材が生まれ、人々が音楽の豊かさや楽しさを求めて集まる“音楽の都”音楽文化を活かしたまちづくりにより、市民の暮らしの質や豊かさを高める音楽文化を活かした産業振興、都市づくりを行うことである。

《フィルムコミッション推進事業》

(1) 目的等

映画やテレビ番組等の撮影を誘致し、上映・放送による話題性・知名度の向上、ロケ地巡りを目的とした観光客の増加、シビックプライドの醸成による地域活性化を図ることである。

また、浜松市は、映画「弱虫ペダル」やアニメ「ゆるキャン SEASON 2」、漫画「焼いてるふたり」等のロケ地又はモデル地であり、一定の観光誘客につながっており、また、令和6年4月から、アニメ「ゆるキャン」の新シリーズが始まるため、話題性の高まりにより市内のモデル地にもファンが訪れることが期待している。

(2) 事業内容

① 映像コンテンツを活用したプロモーション事業

- ・本市がロケ地・モデル地となった映像作品等を活用したプロモーション
- ・天竜浜名湖鉄道ラッピング列車製作
- ・弁天島海浜公園案内看板等製作
- ・モデル地マップ作成・増刷
- ・誘客用WEBマップ作成等

② ロケ地マップ、セールス用パンフレット作成事業

- ・市内撮影の映像作品を掲載した市民やファン、観光客向けのロケ地マップの作製
- ・市内のロケーションを掲載した制作会社向けのセールス用パンフレット作製

③ フィルムコミッションHP管理運営事業

(3) 今後の課題

海外作品・世界配信作品への対応、浜松市の海外における認知度・魅力度の向上である。

具体的な取組として、国内作品の海外展開、海外作品の誘致、多文化共生・グローバル都市としてのブランディング、産学官金民のネットワーク人材の確保、種々の聖地形成と聖地巡礼の加速（インバウンドの推移）、世界的な映像作品の撮影とプロモーションである。



●その他（所感等）

◎熱海市のロケサポートとインバウンド需要受け入れに関する行政視察の所感

1 はじめに

今回の行政視察では、熱海市におけるロケーションサポートの取り組みと、インバウンド需要の受け入れ体制について調査を行った。熱海市は観光地としての強みを活かし、積極的な誘致活動と受け入れ体制の整備を進めており、他自治体にとっても参考になる事例が多く見られた。

2 ロケーションサポートの取り組み

熱海市は、映画やドラマの撮影地としての魅力を発信し、ロケーション撮影の誘致を強化している。特に以下の点が印象的であった。

- ・ワンストップ窓口の整備： 申請手続きの簡略化や、撮影許可の迅速な対応を実現。
- ・市民・事業者との連携： 撮影協力の理解促進や、地元商店街との協力体制の構築。
- ・ロケ地マップの作成： 映像制作関係者だけでなく、観光客向けにも情報発信を行い、撮影後の観光誘導に活用。
- ・成功事例の活用： 過去の撮影実績を PR し、新規案件の誘致につなげており、こうした取り組みは、観光振興だけでなく、地域経済の活性化にも寄与しており、自治体による積極的な関与の重要性を感じた。

3 インバウンド需要の受け入れ体制

熱海市は、訪日外国人観光客の増加を見据え、以下のような対応を進めている。

- ・多言語対応の強化： 観光案内所や主要施設での英語・中国語・韓国語対応の充実。
- ・キャッシュレス決済の普及： 海外からの旅行者が利用しやすい決済手段の導入促進。
- ・観光コンテンツの充実： 体験型アクティビティの充実や、SNS を活用した情報発信。
- ・交通アクセスの改善： 駅周辺の案内表示の多言語化や、観光エリアへの移動手段の整備。

特に、多言語対応とデジタル技術を活用した観光情報の発信は、インバウンド需要に対応する上で重要であり、他自治体でも参考にできる点であると感じた。

4 課題と今後の展望

熱海市の取り組みは先進的ではあるものの、いくつかの課題も見受けられた。

観光客の増加に伴う混雑対策：受け入れ体制のさらなる整備が求められる。

持続可能な観光開発：地元住民との共生を図りながら、長期的な観光振興を進める必要。

デジタル活用のさらなる推進：AI やアプリを活用した観光案内の拡充が期待される。

今後、他自治体でも熱海市の取り組みを参考にしつつ、地域の特性に応じた施策を進めることが重要である。

5 おわりに

熱海市のロケーションサポートとインバウンド受け入れの施策は、観光地としてのブランド力向上に寄与していることが確認できた。行政と民間が連携し、地域資源を最大限活用することの重要性を改めて認識した。今後の政策立案に活かしていきたい。

◎浜松市の音楽を中心としたまちづくりとフィルムコミッションに関する行政視察の所感

1 はじめに

今回の行政視察では、浜松市の音楽を活かしたまちづくりと、フィルムコミッションの取り組みについて調査を行った。浜松市は2014年にユネスコ創造都市ネットワーク（音楽分野）に登録され、音楽文化を軸とした都市づくりを進めている。また、映画やドラマの撮影誘致にも積極的に取り組み、地域経済の活性化を図っている。これらの施策は、文化振興と観光戦略の両面で大きな示唆を与えるものであった。

2 音楽を中心としたまちづくり

浜松市は「楽器のまち」として国内外に知られ、楽器産業が集積している。視察を通じて、以下のような特徴的な取り組みが見られた。

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク登録の活用
- ・国際的な音楽イベントの開催
- ・世界の音楽都市との連携強化
- ・公共空間での音楽の活用
- ・駅や商業施設でのストリートピアノ設置
- ・音楽イベントの定期開催による市民参加の促進

- ・音楽産業の振興
- ・地元楽器メーカーと連携したプロモーション
- ・音楽教育の充実を図る学校や市民向けプログラムの提供

これらの施策は、音楽を通じた地域活性化のモデルとして参考になるものであり、市民の文化的な充実度を高めるとともに、観光や産業振興にも寄与している。

3 フィルムコミッションの取り組み

浜松市は、映画やドラマの撮影地としての魅力を発信し、映像制作関係者の誘致を積極的に行っている。視察では以下のような施策が確認できた。

- ・撮影支援のワンストップサービスの提供
- ・撮影許可の迅速化
- ・ロケ地情報のデータベース化と提供
- ・地域と連携した撮影受け入れ体制の整備
- ・地元企業や住民との協力体制構築
- ・撮影後の観光誘導（ロケ地マップの作成など）
- ・成功事例を活かしたプロモーション
- ・浜松市で撮影された作品のPRを通じた観光促進

フィルムコミッションの活動は、地域経済への波及効果が期待されるだけでなく、都市のブランドイメージ向上にも寄与する点が特筆される。

4 課題と今後の展望

浜松市の取り組みは先進的であるが、さらなる発展のためには以下の点が課題として挙げられる。

- ・持続可能な音楽文化の発展
- ・若年層の音楽活動支援の強化
- ・市民参加型イベントのさらなる拡充
- ・ロケ誘致と観光戦略の連携強化
- ・映画やドラマを活用した観光プロモーションの強化
- ・デジタル技術を活用したロケ地情報の発信

5 おわりに

浜松市の音楽を軸としたまちづくりとフィルムコミッションの取り組みは、文化振興と地域経済活性化の好例であると感じた。ユネスコ創造都市ネットワークの活用や、官民連携によるフィルムコミッションの強化は、他自治体でも参考にできる要素が多い。今後の施策に活かしていきたい。